



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



みなと学園健康講座でかるた教室を開催



港かるた〔字札・絵札・読札(左から)〕



港かるたと史跡めぐりガイドブックを手に

地域固有の自然、歴史、伝統、文化を

かるたを通して今に伝える

失われつつある大切なものを掘り起こし、港かるたを起爆剤として地域活性化を図る元気な男性を紹介します。

川崎明夫さん(65歳)気比

「青いタグ 日本一の津居山かに」積年の願いで架けた「港大橋」。

ふるさとの魅力を後世に...

1級河川円山川の河口部に位置し、漁業、農業、観光を主産業に七つの集落で構成される港地区。同地区では、ふるさとの魅力を再認識するとともに、後世に継承するため、地元の歴史や伝統、文化、産業などを題材にした「港かるた」を作成。全世帯(約千戸)に無料配布しました。港かるた実行委員会副委員長の川崎明夫さんは「約2年掛けて完成させました。苦労もありましたが、みんな楽しんでましたよ」と笑顔で話します。

地域を結ぶ港かるた

川崎さんは「できるだけ多くの方に携わってもらうこと、完成後は活用すること」を条件に平成20年に実行委員会を設立。メンバーは区長会、高年クラブ、公民館や育成会の役員らで構成し、実際に制作に関わる制作部会を設け、約70人で作業を進めました。

まず、かるたの題材を45に絞り込み、読み札の句を区民に呼び掛けたところ、約

250句の応募がありました。「五七五の句で45音に当てはめるのが難しかったですね」と話す川崎さん。

従来のかるたと同じでは面白くないので、読み札の「五七五」の句のうち、真ん中の「七」の句の頭文字を取り札にし、上の句を詠んで下の句を取る百人一首の技法を取り入れました。取り札は片面が切り絵による「絵札」、もう片面は読み札の句を書いた「字札」とし、切り絵は地元作家がデザインした原画を区民が和紙で制作。字札は地元の書家が趣のある書をしたためました。さらに、読み札の裏に解説文を付けて歴史書の機能を持たせ、機能性と芸術性を併せ持ったものとなりました。

かるた大会を継続開催

平成23年2月に第1回港かるた大会を開催。個人戦、団体戦、7地区対抗戦に、あらゆる年代から約160人が参加しました。平成24年には参加者が200人に増えました。「2月3日(日)に第3回大会を予定しています。今年は趣向を変えて字札を取るようにしようと思っています。こ

れなら句を覚えていないと早く取れないので、高齢者も子どもに勝てるのでは」と楽しそうに話します。

「史跡めぐりガイドブック」完成

かるたの発刊をきっかけに、かるたの史跡所在地に関する問い合わせが寄せられるようになりました。ウォーキングを兼ねた、かるたゆかりの史跡巡り事業が、各区や学校で行われるようになりました。

そこで、集落の地図上にかるたに登場する史跡の場所を記した「史跡めぐりガイドブック」を作成し、全戸に配布しました。45枚の絵札と解説文も掲載し、ふるさとが一目で分かるようになっていきます。

港はほんまにエエところですよー

「かるたを起爆剤に、地域や世代間のつながりが強まりました。地域活動への参加者も増え、地元への愛着も深まったのだと思います。実行委員会は存続し、史跡巡りのガイドやかるた大会の審判をしています。今後は、かるたに取り入れられなかった題材の活用を検討していきます」とのこと。皆さんも港地区の史跡を巡ってみませんか。

学校探検

中学校編 9

出石中学校(出石)

案内者 松本みのりさん(3年3組)・
内畑綺世美さん(3年2組)・小坂尚
規くん(3年1組)(左から)



出石中学校は在校生305人で、学校教育目標に「共に学び合い ころ豊かに たくましく生きる生徒を育成する」ことを掲げています。

同校に通う生徒会長の内畑綺世美さんは、女子テニス部副会長の松本みのりさんと小坂尚規くんは、剣道部に所属していました。

部活動のことを聞くと、内畑さんは「試合形式で行う練習では、学年に関係なく対戦でき、技術向上を図れて楽しかった」、松本さんは「部員数が多く、まとめるのが大変だったが、試合では団結して、但馬大会で上



位入賞ができてうれしかった」、小坂くんは「お互いに技術などを高め合えることができてよかった」と話します。

今回は、内畑さん、松本さん、小坂くんの3人に出石中学校を紹介してもらいました。

特徴ある取組みとして、奉仕活動があります。夏休み中に全校奉仕作業として一斉に自分たちの住む地区の掃除をしたり、JRC委員会が呼び掛けて、

一人暮らしの高齢者に励ましの手紙を書く「ふれあい郵便」などに取り組んで



▲奉仕活動

います。先日は年賀状を送りました。手書きの手紙を送ること、受け取った方に喜んでいただけたと思うと温かい気持ちになります。

「プルタブ・ペットボトルキャップ集め」では、集まったものを月に1回クラスごとに取りまとめ、関係団体に送り、ワクチンの購入に役立ててもらっています。

「夢の感労賞」は、学期ごとに、クラスの中から「クラスを支えてきた人」を選び、表彰しています。卒業するまでに一度は選ばれたらいいと思う生徒も多いです。

「ノーチャイム(授業と授業の間のチャイムを鳴らさない取組み)」や「五分前行動」は、入学当初は戸惑いがありましたが、今では習慣化しています。

出石中学校は、生徒みんなが仲が良く、行事ごとに生徒の輪を育んでいます。生徒会のスローガンに「笑々誇れる出中を」を掲げているので、今後まだまだ実現できていないことや新しいことに取り組み、学校を盛り上げていきたいと思っています。

顔の輪 笑の

心も体も健康になれる！

バランスボールEGGM100(豊岡)

バランスボールEGGM100は、バランスボールを使って体操するグループです。サークル名にある「EGM」は、EⅡ江本、GⅡ元氣な、MⅡマダムから付けました。

代表の奥 君子さんは、健康をすすめる会として活動していました。平成24年、希望者でこの会を設立しました。会員は現在女性10人で、57歳から78歳まで。とても元気なマダムたちです。

毎月第1・3水曜日の夜に江本会館で体操をしています。練習後のおしゃべりも楽し



▲毎回約2時間、しっかり汗を流します

の一つで、自分たちが仕入れた健康情報を交換する場にもなっています。

会員の皆さんは「肩こり、便秘が改善した」「体重が減った」「おしゃべりしながら楽しくできるので、ストレス解消になる」と体操の成果をうれしそうに話します。

バランスボールを使った体操は、ストレッチから歩きキングのテーマソング「☆」のステップなどの曲に振りを付けたものまでさまざま。レパトリリーは現在5曲で、全ての曲の振り付けを奥さんが担当しています。

奥さんは「一番の目的は、みんなに自分の健康に関心を持ってもらうこと。ぜひ、100歳まで続けたい」と笑顔で話します。

昨年11月にカバンストリートで開催された「カバストマルシェ」で、初めて披露。次回は3月に福祉施設での催しへ出演を計画しています。